

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年十一月、西武新宿線の立体化を見据え、外環の2を平面として計画幅員を縮小し、上石神井駅に交通広場を設置する都市計画変更が東京都により行われました。これを契機として、西武新宿線の立体化に向けた機運が一気に高まり、本年一月の区民、区議会、区による「西武新宿線立体化促進協議会」結成に至りました。結成大会では、外環の2を始めとする区内の南北道路整備にあわせて、沿線地域のまちづくりに取り組むこと等を確認し、同月中に鉄道立体化の早期実現に関する東京都への要請活動を実施しました。要請活動の実施後も、鉄道立体化等に対する地元の声は、益々大きくなっています。

区は、これまで地域住民とともに、沿線のまちづくりを鉄道立体化と一体的に進めていくため、上井草駅、上石神井駅、武蔵関駅の各駅周辺地区において、まちづくり構想を策定しました。まちづくり構想の具体化に向けては、外環の2が交差する上石神井駅周辺地区を手始めに、住民参加型のワークショップを開催するなど検討を進めているところです。上井草駅や武蔵関駅の駅周辺地区についても、同様に検討していきます。

安全・安心で、快適な暮らしやすいまちとしていくためにも、鉄道の立体化や外環の2などの南北道路の整備が不可欠です。是非とも本要望趣旨にご理解をいただき、地元の方々の悲願である鉄道の立体化と南北道路の整備について、早急に事業化の取組を進めていただきますよう、左記の事項を要望いたします。

記

- 一 西武新宿線（井荻～東伏見駅付近）の連続立体交差化の早期事業化に向けた取組を進めるとともに、外環の2についても積極的に整備に取り組むこと
- 一 外環の2については、区内全ての区間の早期整備に取り組むこと。とりわけ、上石神井駅付近については、駅前にあさわしい魅力あるまちづくりを早期に実現できるように、区と連携して進めること

平成二十七年十一月十一日

西武新宿線立体化促進協議会

会長（練馬区長） 前川 耀男

東京都知事

舛添 要一 様